『現代の奴隷
～身近にひそむ
人身取引ビジネスの真実と
私たちにできること

モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版

訳者と読む『現代の奴隷』

『現代の奴隷～身近にひそむ人身取引ビジネスの真実と私たちにできること』
モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版　の連続読書会

ノット・フォー・セール・ジャパン

2023年『人身取引反対世界デー』キャンペーン

読書会の流れ

＊ご挨拶・お願いなど／チェックイン（チャット欄に書き込み）

＊本書の概要紹介（第１回めのみ）

＊その回でとりあげる章の概要紹介

＊ハイライト箇所の輪読

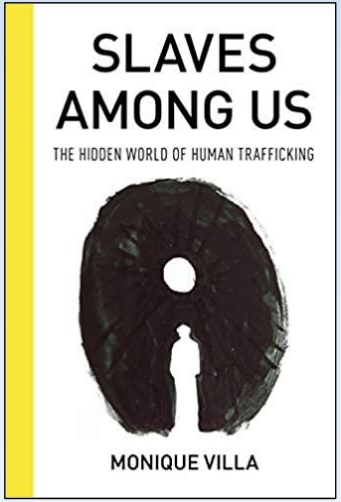
＊訳者・山岡万里子によるキーワード解説

＊ディスカッション（全体を４つのグループに分けてブレイクアウトROOM）

＊ディスカッションのシェアとQ&A

＊次回のご案内

課題本 『現代の奴隷
～身近にひそむ人身取引ビジネスの真実と
私たちにできること～』 について



◆原題：
『Slaves Among Us:
The Hidden World of Human Trafficking』
（直訳すると、『私たちの身近の奴隷たち
～隠された人身取引の世界～』）
◆出版社：Rowman & Littlefield
◆出版年：2019年

©Monique Villa
ご本人のツイッターより拝借

◆著者：Monique Villa　（モニーク・ヴィラ）
元AFP通信の現場記者。AFPの国際パートナーシップ構築に尽力し、ロイター・メディア、アクション・イメージなどのトップを経て2008年より**トムソン・ロイター財団**CEO（現在は引退し、アドバイザーを務める。）同財団による法律事務所とNGOをつなぐプロ・ボノ法務プログラム「TrustLaw Connect」および女性の権利向上を目指した「**Trust Women Conference**」を創設。2011年には、企業倫理シンクタンク「Ethisphere」が選ぶ「企業倫理において世界で最も影響力のある100人」に選ばれている。

◆概要：

2008年に**トムソン・ロイター財団のCEO**に就任した著者は、この財団で、現代社会の課題を解決するプロジェクトを始めようと決意した。

そこへいくつもの偶然の出会いがあって、**現代奴隷の問題**を知り、深く関わるようになる。

2012年に「**トラスト・ウィメン・カンファレンス**」という名の、現代奴隷問題解決のための国際フォーラムを毎年主催するようになり、講演者を探すために、多くの当事者たちと出会っていく。

本書では主に、著者がカンファレンスに招いた３人の**サバイバー（元人身取引被害者）**のストーリー、それらを挟むように語られる**現代奴隷問題をめぐる解説**、そして多方面で試みられている**解決のための方法**が語られる。

最後は、著者が**ヒーロー**と呼ぶ、この問題に取り組む人物たちの紹介で締めくくられる。

＊3人のサバイバーのストーリーは必ずしも一つの塊で語られるわけではなく、主に、奴隷として搾取されていた期間の話と、奴隷状態を抜け出してからの葛藤および自ら立ち上げたNGOの活動の話の２段構えになっている。

◆目次：

序文――なぜ？ (ディーペンドラ) Preface: Why?
第1章　現代奴隷とは誰のことか Who are the Modern Slaves?
第2章　最も卑劣な犯罪――人身取引というビジネスモデル ジェニファー The Most Despicable Crime: Techniques of the Human-Trafficking Business Model
第3章　ネパールからカタールへ――債務奴隷 ディーペンドラ From Nepal to Qatar: Debt Bondage
第4章　心に刻まれたタトゥー――腐敗と免責 マルセーラ A Tattoo on Your Soul: Corruption and Impunity
第5章　奴隷化の心理的影響 ジェニファー The Psychological Impact of Enslavement
第6章　バル・アシュラムの子どもたち The Children of Bal Ashram
第7章　人身取引加害者の胸の内 (ジェニファー) In the Mind of a Trafficker
第8章　限られた選択肢 マルセーラ Limited Options
第9章　ビジネスが鍵（課題と解決法の両方で） ディーペンドラ Business Is Key—To the Problem and the Solution
第10章　解決法――個人から、分野を超えた世界的な関わりへ Solutions: From Individuals to Cross-Sector Engagement, Worldwide
第11章　私のヒーローたち My Heroes

第１回目　７月25日　19:30～

序文--なぜ？

第１章　現代奴隷とは誰のことか

第２章　最も卑劣な犯罪--人身取引というビジネスモデル

Keywords：『社会背景』『グルーミング』

序文ーーなぜ？

なぜ人身取引・奴隷制に興味を持ったか

自らの先祖をたどることができるのは特権と気づく

子どもの頃から「権力の座にあるものがその裏に何を隠し持っているのかを知りたい」
好奇心⇒ジャーナリストに

喘息発作で死にかけた経験⇒
自分がしたいことを選ぶ自由を信じる

本書の目的

英雄であるサイバ-らの物語を伝え、その勇気を示す

消費者として「選択肢（チョイス）と声（ヴォイス）がある」

一人ひとりが、消費者として、市民として、人間として奴隷制に終止符を打つ、その方法を探る機会を提供する

３人のサバイバーの名前紹介

ネパール人男性　ディーペンドラの物語の導入

ジェニファー・ケンプトン
ディーペンドラ・ジリ
マルセーラ・ロアイサ

反人身取引の活動は非人間化を拒むこと

第１章　現代奴隷とは誰のことか

奴隷とは

騙しあるいは暴力の脅しによって労働を強制されている人

古代奴隷：一生奴隷のまま
現代奴隷：数年あるいは数ヶ月囚われた後に捨てられる（使い捨て）

捨てられた後には奴隷生活同様に残酷で先が見えない状態におかれる。

現代奴隷～この犯罪の特徴

成長著しいグローバル産業

推計値：国際労働機関とウォークフリーが発表している　現在5,000万人（正確なデータはない）
産業として見えない、隠されている

人身取引犯罪の立件数は少ない
⇒検察は量刑が同程度なら、立件が容易な犯罪（マネーロンダリングや脱税など）に力を注ぐ

第１章　現代奴隷とは誰のことか

多くの奴隷は自分が奴隷であることを知らない

解放された子どもたち⇒「お金は家に送金されている」と信じていた

奴隷状態を抜け出しても癒やされない

破壊される自尊心、他者への信頼
⇒多くが依存症の治療を必要
⇒失われた教育の機会を補うのが困難
⇒権利回復のために共闘してくれる弁護士らの不足

奴隷制は巨利をもたらす

ILO推計　1500億ドル／年
専門家たち　１兆ドルに迫る

奴隷の価格　19世紀アメリカ　現代の貨幣価値で４万ドル
現在の平均価格は90ドル（使い捨て、すぐに補充できる）
⇒ローリスク・ハイリターン

第２章　最も卑劣な犯罪

サバイバー、ジェニファー・ケンプトンの物語を通して、人身取引のビジネスモデルに迫る。

ジェニファーは自由になった後、自らNGO「サバイバーズ・インク」を立ち上げ活動。一方で、自身は過酷なトラウマに苦しんでいた。

第２章　最も卑劣な犯罪

ジェニファーの経験

彼氏によるグルーミング
女性のぽん引きの存在
薬物漬け
町から町への移動
彼氏からの暴力⇒彼はジェニファーを路上の売人たちに売る
出産
彼氏の元に戻る
暴力を受ける⇒再び彼によってギャング組織に売られる
買い手によって凄惨な暴力にあうが、人身取引業者のもとに戻る
警察は地元の娼婦を相手にしない
自殺未遂……

第２章　最も卑劣な犯罪

なぜ、逃げ出さないのか＝脆弱にさせる仕組み

「グルーミング」
「前科を負わせる⇒いったん自由になった奴隷が再勧誘されやすい」
「薬物漬け」
「PTSDを負わせる」⇒リハビリプログラムがない

現代奴隷の産業の原動力

金銭欲、腐敗、無知があるかぎり成長する

著者が指摘する現状、問題点

1 明らかになっている奴隷人口は氷山の一角
2 データ不足のため、課題の進捗がわからない⇒NGOは効果を示せない、資金調達が困難
3 奴隷制は組織犯罪、一方対抗する勢力はバラバラ

なぜ巻き込まれるのか

高収入の仕事の約束
信用している人物からの勧誘

第２章　最も卑劣な犯罪

服従させる方法

暴力、脅し、特に性虐待（強姦）
⇒恥辱ゆえに、自分自身を責め、自尊心が崩壊

慣れ親しんだ文化から引き離す、移動の自由を奪う
⇒手段として、インターネット、SNSの普及がこれらを容易に

難民は被害者の供給源

6,000万人

2010年以降、戦争、自然災害、水不足、貧困などによって窮地に陥り、
家を追われた人々

声に出して、順番に読んでみましょう（輪読）

序文：P12　９行目「10年前からの当時」～P13後ろから４行目「義務がある」はずだ。」

P14　６行目「そして私たちのほとんどが」～後ろから５行目「かもしれない」

第１章：P24　５行目 「多くの被害者が」～P25 最後「秘訣なのだ」

第２章：P28　最初「厳密に言うと」～P29　８行目「前からだったようです」

P30　後ろから４行目「今なら心理的に」～P31　５行目「と私は考えたのです」

P32　６行目「女性が私たちの面倒を」～　P33小見出し前「家から追い出しました」

P43　８行目「ジェニファーはまた」～P45小見出し前「することを強いられた」

《解説》

なぜ今の時代に”奴隷”がいるのか
～社会背景、グルーミング～

現代の奴隷制と人身取引

世界には約5,000万人の「奴隷」がいる

*2022年版「現代奴隷の世界推計
Global Estimates of Modern Slavery」より
（ILO, WF, IOM）
5,000万人のうち
約2,800万人が強制労働の被害者、約2,200万人が強制結婚の被害者とされる。

「現代奴隷」とは…

- 最悪の形態の児童労働
- 強制労働
- 借金による束縛
- 奴隷的所有状態
- 強制結婚
- 人身取引

…これらの総称

「人身取引」 国連の定義

搾取（人を働かせて不当に利益を搾り取ること）を**目的**に、
暴力・おどし・だまし・相手の弱い立場につけこむ・
相手を支配している第三者に金を払う/便宜を図るなどの**手段**を使って、
相手に**仕事をあっせん**したり**引き渡し**たり**移動**させたり**監禁**する**行為**。

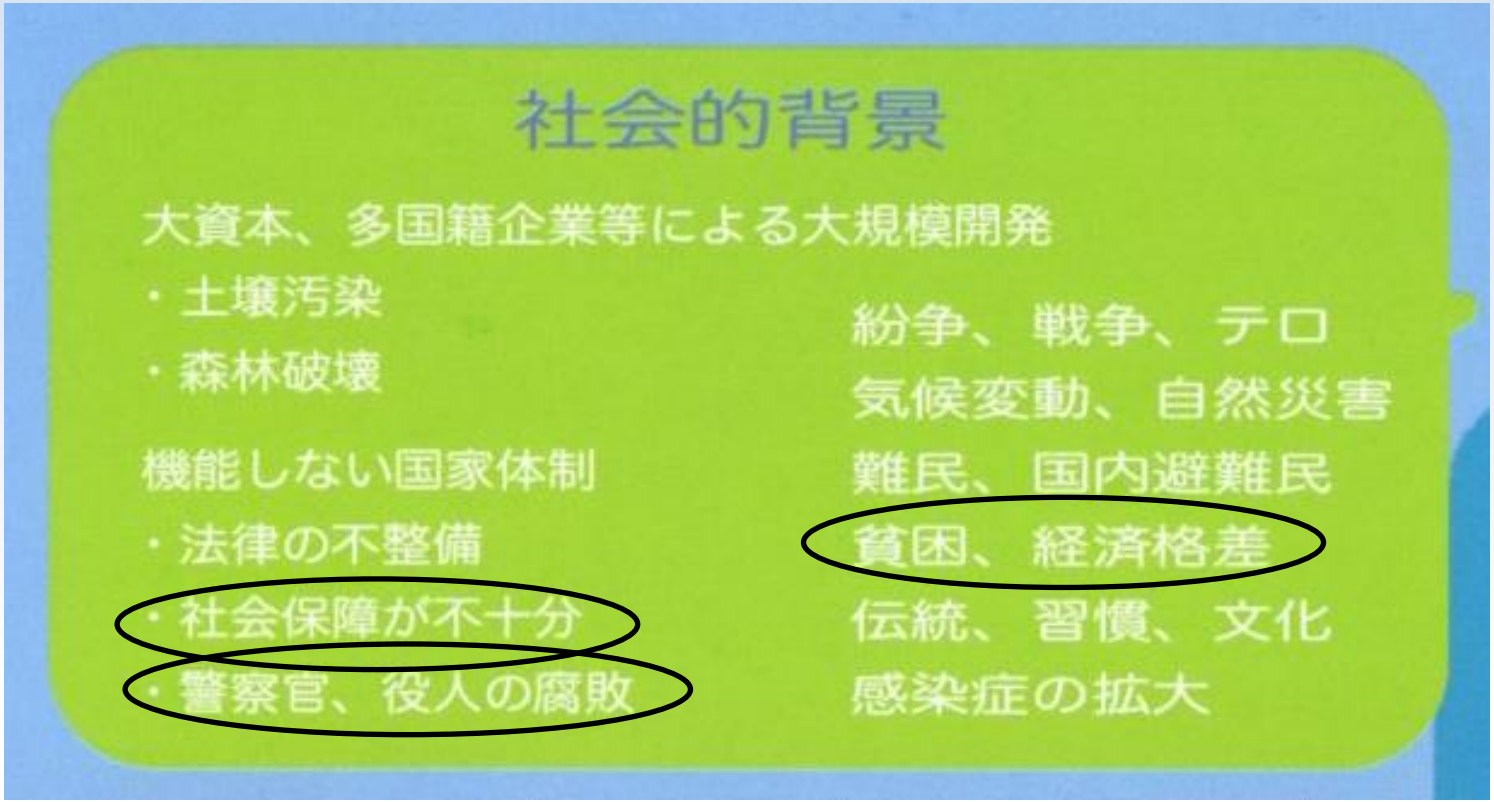
（国連「人身取引議定書」第3条）

ざっくり言って…
人身取引とは、人を奴隷にするプロセス
現代奴隷とは、人身取引の被害者

（ただし、「人身取引とは現代奴隷の一形態である」というのが、主流の考え方。）

なぜ被害に遭うのか（NFSJリーフレットより）

なぜ被害に遭うのか～社会的背景～



人々が脆弱な立場に追いやられる ⇒ 被害に遭いやすくなる

なぜ被害に遭うのか～個人的なきっかけ～

個人的なきっかけ

土地・住居を失う
収入の減少、または失業
（外国からの）移住労働
家族の稼ぎ手の病気、怪我、死
DV、離婚
虐待、ネグレクト
サポートが得られない
相談窓口を知らない

保護者がいない
家出
いじめ、居づらさ
認められたい
優しくされたい
恋愛をしたい
結婚相手に出会いたい
モデル、アイドルになりたい
学費が欲しい

必死な気持ちを利用される ⇒ 依存関係に持ち込まれる

なぜ被害に遭うのか
～グルーミング～

Grooming＝毛づくろい
⇒「**性的虐待目的**で未成年の子どもと親しくなり、**感情的なつながり**を築いて手なずけ、被害児童を**支配**しやすくすること。」

友情、愛情、励まし、承認、親しみやすさ、褒め言葉、贈り物、など子どもが欲しいと思っている言葉や物を与え、時間をかけて信頼を勝ち得る。

★改正刑法(2023/7/13~)
「わいせつ目的面会要求罪」
⇒性的グルーミングが処罰対象に。

ディスカッション
15分

次に示す問いについて
どのように捉えますか？

その他、気になったフレーズ、質問や疑問なども、自由に話してみてください

１）現代の奴隷
とは誰か

２）私たちは現代
奴隷と無関係で
いられるか

ご参加、ありがとうございました

ノット・フォー・セール・ジャパン
Not For Sale Japan

次回は、
８月１日（火）19:30～
３章、４章を読みます